

# 針供養

岡田 静子

京都市嵐山駅から左の方へ、少し坂道になり五、六分の所に、虚空藏法輪寺があり、針供養の行事が十二月八日午後一次頃行われます。針供養とは、裁縫をする人が使った、折れたり曲がったりした針を供養し技芸の上達を祈るので、京都の女の人はそれぞれに美しい着物を着て、中にはやや老いた人は胸に房のさがった被布を着た人も見かけました。

段々と人がふえて来て境内は華やいだ雰囲気になり、境内の一角に黒衣の僧が三人いて石でかこんだかまどで火を焚いて、釜で甘酒を煮て、湯呑茶碗に甘酒を入れる人、その茶碗を洗ふ人です。御奉志の箱がおいてあり、幾許の硬貨を入れ床几にかけて頂くと、十二月の寒い風に吹かれた身体が、ほかほかとあたたまります。持参した折れ針は、本殿の前の左側に大きなダンボール箱が置かれ上から入れる様にしてあり、針を納めて裁縫の上達を祈ります。

法輪寺では宮中へ参内して、皇太后陛下、皇后陛下の御針を頂き供養がなされます。一時前になると本殿の柵が外され外陣にはいます。本殿内陣の一番高い所に、三宝にのせ紫の袈紗を掛け、向って右に、皇太后陛下、左に皇后陛下御針と黒痕あざやかに書かれた大きな印がかかげられ、内陣の僧の坐に、緋の衣金銀の袈裟をかけた御僧が、手に数珠をかけて坐し、先づ右側の鐘をゴーンと撞いて厳かに法要がはじまります。本殿外陣は豊が敷いてあり、女ばかりで身動きもならぬ人で一ぱいで、カメラマン、新聞記者らしい人も三人来ていました。

京都は古い都で西陣織、友禅や、小紋縮緬等高級な着尺の産地でもあり、正月、七五三成年式その他祝い事には美しい着物を着て、家庭での行事もあります。昔私も針を持って神戸のある寺にお詣りしました。神前に並べられた蒟蒻に針をさしました。お針子の数人と

共に師匠が参詣する姿も見られました。今はデパートに行けば、高級な着物も仕立てて届けてくれますが、昔は仕立屋さんに頼んで縫って貰ったのです。今は洋服の世となりましたが、京都へ行くと着物を着て、店に立って商売をする人もいます。私の知る内科の開業医は、注射の針も針供養にもって行くと云う話も聞きました。

供養の読経が終わる御僧が去った後に、内陣の左側五六人の人が並んで、大きな太鼓が一つドーンと鳴り、別棟から舞姫が二人あらわれます。どこかの国の民族衣装の様な、うすいうすい絹の赤とピンク色の裾を引き、裾までの長い袖をひらひらさせしづしづと内陣にあらわれ、大きな糸巻を高くかざして、太鼓笛、笙ひちりきの音にあはせて、静かに華やかな舞を奉納します。それが終ると、外陣の女全員に、八十人か百人位もあつたでしょう五寸釘位の銀色の太い針が一本づつ渡され、その針に、赤、黄、青、紫等の太い紐が通して結んであり、内陣下陣の堺に、五種四角、長さ十五種位の大

きな蒟蒻が並べられ、それに針を

高円山ホテル名物料理  
「がらんぼ鍋」の由来  
千二百年の昔、高円山には石淵寺千坊があり、勤操大徳を初め、幾多の名僧が研修所として、厳しい修業と戒律に励んでいました。勤操僧正は、弘法大師の剃髪の師匠であり、七十四年の生涯を南都七大寺の一つにかぞえられる大安寺を本寺として、各地に赴き、佛法を説き人々から明星菩薩と仰がれた聖僧です。

つきとさせて、技芸の上達を祈って終りとなります。一般の針供養は二月八日にこの寺で行われます。和歌山県加太神社でも針供養があり、大阪、奈良、兵庫など遠くから女の人が大勢集まり神前の蒟蒻に針をさして技芸上達を祈ります。境内は一ぱいの人で、海の見える茶屋で、ささえの壺焼を食べ、古い老舗の草餅屋で、並んで大勢が土産に買って帰ります。

加太の海は夙いでいました。この神社では三月三日に雛流しの行事があります。こわれたり古くなった雛を白い方舟に山と積み上げ棧橋で神官の長い長い舟のりなが上げられ、方舟は静かに沖に流れて行きます。ここでも腰まで海水につかったカメラマンが来て撮っていました。加太神社は女にとつての神様としても知られています。針供養、雛流しだといって、亡夫はいつも機嫌よく、「いつておいで」と言っ行って行かせてくれました。今はただなつかしい思い出として残っています。

# 辰巳たよ

## 本部秋季例会

平成二年十月十二日(火)

於・奈良秋篠寺など

十月十二日(金)秋の例会として、奈良大和路の名刹巡りをして参りました。紀行文として、会員の木下清三郎氏のお便りを載せさせて頂きました。

十月十二日の秋季例会大和路名刹巡りには大変に御世話になりました。御礼が大変に遅れまして何とも申し訳ありません。

毎度の事乍ら幹事・役員の方々の御苦勞の程只々感謝の他ありません。御かげで楽しく、愉快に一日を過ぎて頂きました。毎回出来る丈参加させて頂く事に決心していますのも、何かに残るものが二ツ三ツとあり嬉しく想い返して居ります。

一、今回の都島観光の運転手さんの運転技術が大変に御上手ダツタ事に感心しました。如何にも乗り心地がよく心に残りました。

二、がらんぼ鍋で大安寺汁を賞味し、千二百年も前の高僧が考案されたと云う、不老長寿の食事を頂き、長生きが出来ると思わさせて頂きました。

三、浄瑠璃寺にて役僧の説明で薬師如来を拝み更に遙るか西方の阿弥陀如来(九体)を中央の池越しに拝むのが正当である。宇治の平等院も同じで、阿弥陀如来を直ぐ傍で拝む事は間違イダ。奈良の大佛さんも外から拝むべきだとの説明を受けたが、成ル程とは思ったが、それでは参拝人を誘導するのに今少し工夫があればと思った。

四、秋篠寺、岩船寺、夫々に千年も千二百年も昔に建立され今日に到っているが、当時の匠の技、設計企画の妙には感心させられる。大切に保存したいと痛感する。

十月十六日 高槻市 木下清三郎



大安寺には、厳しい修業と戒律に耐えるため不老長寿の木の実、榎の実から搾った油を材料とし、これに麴から精製した赤酒と醬酒を加えた大安寺汁が今もお伝えられています。この秘法を受けつぎ、勤操大徳に最も由緒の深い、高円山石淵寺の伽藍坊跡に、当ホテルを建設し「がらんぼ鍋」と名づけました。

阿部 孫治 福沢 有一	安東 浄松 松下 重男	五十嵐 集松 原和 雄	奥田 さき 南前 義夫	桂 芳男 山本 秀子	金子 貞子 安並 正道	金子 雅子 横田 よしこ	木下 清三郎 鷺尾 千鶴子	源島 清三郎 計二十四名	小林 俊夫	河野 芳子	田中 清	高畑 薫幸	喜代子
-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	--------------	---------------	--------------	-------	-------	------	-------	-----



# 東京支部秋の旅行

平成二年十一月一日(木) 秋の例会は御岳溪谷を觀賞しながら奥多摩へバス旅行しました。

五日前の十月二十七日には関東地方に木枯し一号が吹き秋の気配を感じましたが、旅行当日はほんとうに好天に恵まれ、すばらしい一日でした。参加者二十一名。

奥多摩の大秋晴に恵まれて  
 定刻をすこしおかれて九時十五分東京駅丸ビル前を出発。バスは藤田観光のデラックスバスでトイレ付。座席は三六〇度回転シートで、車体も高く、窓外の景色を眺めるのに好敵。感じの安東さんから心のこもった挨拶を頂く。首都高速から中央高速に入り、八王子ICで地上に降りて、吉野街道を走り吉川英治記念館に向かう。十一時すこしすぎに到着。

広大な敷地内に母屋、書斎、展示室等々が点在し静かな雰囲気。吉川英治氏の作品で私達が知っているのは鳴門秘帖、新平家物語、

私本太平記、剣豪宮本武蔵伝等のすばらしい作品。吉川氏は常に「吾以外皆我師」、「大衆即大知識」を座右銘とされ衆生の幸福を追究された由。

謙譲の吉川英治小春人  
 石像に白菊かほる日和かな

この記念館には吉川氏の著書、遺稿、遺墨を収蔵して吉川文学の理解と研究の資に供されていきました。因に吉川氏は昭和三十五年(一九六〇年)十一月に文化勲章を授与され文化功労者となられた文化人でした。明治三十五年(一八九二年)八月十一日横浜市生れ、昭和三十七年(一九六二年)九月七日東京都内の病院で逝去七十才でした。

武蔵とは英治の心秋深し

生涯を剣はた筆に秋深し

次いでバスで近くに在る玉堂美術館に行く館前を流れる奥多摩川はすばらしい。大小の紺碧の岩間をしぶきをあげて流れる光景にはしばらく目をとどませてくれる。植田さん国広さん西村さんともど

も久方振りに快流れに出合いましたなあ。

岩に激つ奥多摩の水澄めりけり



川合玉堂氏は日本画家で、伝統的な日本画の本質を守り、清澄にして気品のある作風を展開して、明治、大正、昭和の三代にわたって日本文化の振興に貢献されたことは皆様もよくご承知のことでしょう。館内展示品も心静かに観

賞、いくつかの軸の中で『湖畔秋晴』『寒山拾得』は印象的でした。玉堂さんは明治六年(一八七三年)十一月二十四日愛知県葉栗郡外割田村生まれ、昭和三十二年(一九五七年)六月三十日青梅の自宅で逝去八十四才でした。

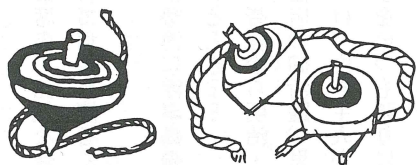
玉堂の温顔まこと爽やかに  
 玉堂の絵に恍惚と秋惜む  
 美術館を昼すこしすぎに出て、昼食のためバスで「ゆずの里 勝仙閣」に向う。

ながめのよい新鮮な空気一杯の会場に皆さん着席。植田支部長の発声で乾杯して食事にはいる。勝仙閣の料理には柚子の香りがしてほんのりと心良い。食前酒、先付、前菜、お造り、焼物、揚物、蒸物、椀物、御飯と、季節の柚子懷石に勝仙閣の心配りが感じられました。おなか一杯に皆様ご満悦。  
 此処を出てバスで奥多摩湖に行き、祈念写真を撮り、あと少々のみ自由行動で小河内ダム等を見学。湖面が澄み渡り空気がとても美味しかった。

## 平成三年米寿銀盃贈呈者

米寿洵に御めでとう御座います。ますますの御長寿をお祈り申し上げます。

千頭元一	小林俊夫
立花實	
計三名	



荒木從繩	嶋内桃枝
今村三郎	田代ヨシ子
植田三男	柘山満寿子
◎上野金治	西川明子
◎同	
請川	安東浄
黄木卓也	芦原有一
加地彦太郎	加藤福雄
国廣五郎	西村鏡次郎
近藤鳩三	長橋忠男
	神山義一
計21名	

辰巳会東京支部 秋の例会参加者  
 平成二年十一月一日(木) 御岳溪谷と奥多摩  
 (五十音順、敬称略)

再びバスに乗り小沢酒造に行きました。創業元禄(一六八八年から一七〇四年)十五年と言いますから今年で創業二百八十六年の老舗。酒造りの工程、苦勞話の説明を聞き清酒澤乃井の『元禄酒』小瓶(見本)を頂いた。

銘菓を求めて大勢の人で一杯、デパートのパーゲンそのけと云う風景です。幹事さんの計いで奥多摩の銘菓、梅ゼリー花みぞれのお土産を頂き皆さん喜び。そして思い思いに買物をしてとても嬉しそうでした。  
 これで今日一日の楽しかった行楽が済み、深まりゆく秋の気配を満喫しました。あとは朝来た道を一路東京に向け順調に走り、幹事の安東さんからお開きの挨拶を頂戴して六時前に新宿に到着。次回のお集まりにお互い元気に再会することを期待し無事解散しました。

## 原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩  
 写真 鈴木往時の思い出  
 近況などを  
 必ず原稿用紙に縦書で  
 四百字詰五枚程度  
 平成三年五月末日  
 締切  
 神戸市中央区海岸通四  
 新明海ビル太陽鋳工(株)内  
 『たつみ』編集部宛  
 送先

